



自然と歴史を楽しむ道しるべ。

# つくばまち歩きMAP

筑波山麓～筑波山神社

筑波山南麓の自然と歴史を感じながら、新しい魅力を見つけてみませんか。

つくば市の最新の運行情報 (バスロケーションシステム)



観光推進課 X (旧Twitter)



観光推進課 Instagram



問合せ:つくば市経済部観光推進課 TEL:029-883-1111

発行:つくば市 2024年10月 (第2版)

自然と歴史を楽しむ道しるべ。

## つくばまち歩きMAP 筑波山麓～筑波山神社

中面地図内の記号

**始点** A バス停 「筑波山口(つくばさんぐち)」

かつての筑波鉄道の筑波駅舎を改修したバス停。筑波鉄道は大正7年(1918年)に開通し、昭和62年に廃線。廃線後の線路は自転車道「つくば霞ヶ浦りんりんロード」として親しまれる。開通当初、筑波山神社まで自動車道が整備され、乗り合い自動車が運行。大正14年には男体山へのケーブルカーも開業した。筑波山口周辺には、大正時代の大鳥居や石碑が立っている。なお、筑波山神社からつじヶ丘までの「筑波スカイライン」は昭和40年に開通、同年、女体山へのロープウェイも開業した。

**B** 八幡塚古墳(はちまんづかこふん)

筑波山口から西へ300m。六世紀の筑波国造の墓と伝承がある前方後円墳。県指定史跡。

**C** 燧ヶ池(ひうちがいけ)

江戸時代の古絵図にもある溜池。現在は、幹のみのエノキの大樹がある。



〈燧ヶ池〉

**D** 飯名神社(いいなじんじゃ)

地元では「稲野の弁天様」とよぶ。本殿の後ろにある高さ4mの巨石が御神体とされる。2月上旬(旧正月初巳)に祭礼が行われ、境内にだるま市が立つ。



〈飯名神社〉

**E** 薬師堂(やくしどう)

イチヨウの大樹の下にある。桃山時代の薬師像と十二神将が祀られている。

**F** 月水石神社(がつすいせきじんじゃ)

御神体の巨石の真ん中に穴があり、1ヶ月に1回、赤い水がでたという。不妊や婦人病に御利益がある。旧暦の1月25日の祭礼には卵を奉納する習わしがある。



**G** 清水(しみず)

大樹の根元から水が湧きだし、別名、雲の井とも言う。筑波六井の一つ。横の坂を登ったところに清水稲荷がある。



**H** 筑波山大御堂(おおみどう)

昭和35年(1960年)に復興。かつて、中禅寺に祀られていた千手観音を安置している。坂東三十三観音霊場二十五番札所。近くにスタジオの大樹がある。



**I** 中禅寺本坊知足院跡

今は石垣のみが残る。石段を登ると、水戸天狗党の総裁であった藤田小四郎の像がある。

**終点** J 筑波山神社

筑波山中腹にある、全国屈指の由緒ある神社。筑波男神伊弉諾尊(いざなぎのみこと)、筑波女神伊弉冉命(いざなみのみこと)2柱を御祭神とし、万葉の昔より広く信仰を集めている。江戸時代には、筑波山は江戸から見て鬼門(北東)にあたることから、徳川幕府より格別なる信仰が寄せられた。明治維新後、神仏分離を経て明治8年(1875年)に中禅寺大御堂の跡地に筑波山を御神体とする筑波山神社の拝殿が完成。昭和3年(1928年)の改修を経て、現在に至る。拝殿に向かって右手にあるマルバクスは葉が丸いクスノキの変種として珍しく、市指定天然記念物。



### 筑波山神社境内のおすすめ・みどころ

**御神橋(ごしんきょう)**

寛永10年(1633年)の造立。春(4月1日)と秋(11月1日)の御座替祭のみ、参拝客の通行が許される。県指定文化財。

**随神門(ずいしんもん)**

江戸時代は仁王門。二度の火事にあい、現在の門は文化8年(1811年)の建立。県内で最大規模の八脚楼門。市指定文化財。近くに「大杉」と呼ばれるスギの大樹がある。

**光誉上人五輪塔**

寛永2年(1625年)の造立。中禅寺中興の功績を称えられ、廃仏毀釈においても守られ、今の地に安置される。

**日枝神社・春日神社本殿と両社拜殿、巖島神社本殿**

寛永10年(1633年)の造立。各社の募股にそれぞれ、神の使いである猿、鹿、蛇が彫られ、中でも日枝神社の「見猿、言わ猿、聞か猿」の三猿は見もの。いずれも県指定文化財。

**ガマの油売り口上**

筑波山のガマガエルの油を混ぜた傷薬を売っていた露天商の口上をもとに作られた口上芸。

**杉の井(しみず)**

筑波山江戸屋(旅館)の敷地内にある。現在は、杉の井を使ったコーヒーが飲める。



### つくば道

寛永3年(1626年)、三代將軍家光の時、中禅寺の堂社を一新する工事が始まり、北条から神郡を抜けて筑波に至る資材運搬路が造られた。これが後に「つくば道」と呼ばれ、筑波山神社までの参詣道となった。

**K** 旧筑波山郵便局・・・二丁目

昭和14年(1939年)に造られた洋風の建物。入口や鬼瓦に「卍」印がある。平成20年に改修が行われ、イベント時に公開される。舗装道になる前の石段が今も残り、近くには、かつて旅籠だった大越邸(イベント時に公開)もある。家屋の中央に土間があり、裏の沢へ抜けられる独特の間取りになっている。



**L** 三叉路・・・四丁目

坂下より、右手側が本通り、左手側が西山通りとなる。



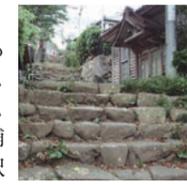
**M** 黒門跡

道の両側に門の礎石が残る。これより、かつて門前町として賑わった六丁目に入り、神社下の一丁目へと続く。屋敷地や水路の石垣は、見事な乱石積である。沢水を集める自然流下型の水道が昭和初期に造られた。



**N** 六丁目の石鳥居

「六本松の一の鳥居」とも呼ばれる。鳥居より上は、石段の道が続いていたが、昭和四十年代に道路に舗装される。近くには千手沢からの用水が流れ、松尾芭蕉の弟子であった服部嵐雪の句碑「雪は申さず先ず紫の筑波山」や、廃仏毀釈によって東京の護国寺に移された仁王像のホゾが残る台座がある。

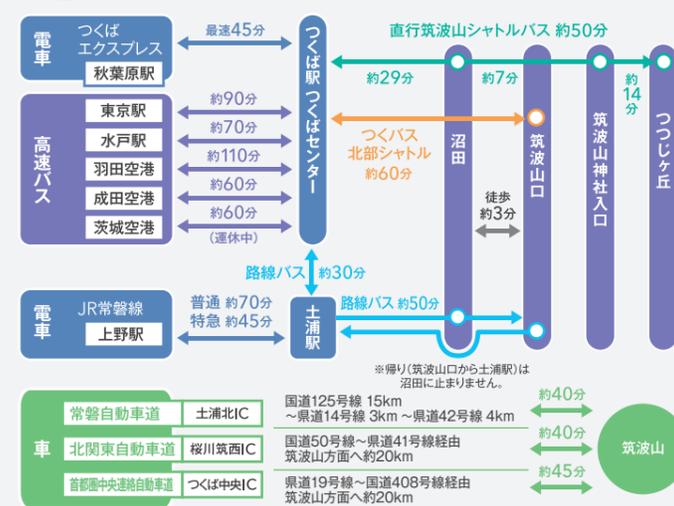


**O** 臼井児童館

石田寺の跡地の一角。多くの石碑や石仏が見られる。文禄5年(1596年)の日待碑は貴重。



### 交通アクセス



各種交通機関の詳細については、各種サイトをご確認ください

